

# INFORMATION

## 「段ボール」について

今回は、みなさんにも馴染みのある「段ボール」について見てみましょう。

段ボールの名前の由来は「断面の波型が階段状に見える」「原紙にボール紙を用いていた」ことからと言われています。

段ボールは、板紙2枚の間に波状に加工した板紙を挟み接着したもので、2枚の板紙を「ライナー」、波状に加工した板紙を「中しん」と呼びます。

日本の段ボールの生産量は年間で約140億平方メートルで、中国、アメリカについて世界第3位となっており、これは琵琶湖の約20倍、関東一都三県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）の合計面積とほぼ同じになります。

日本人一人あたりに換算すると、年間150箱の段ボールを使用している計算になります。

段ボールを使用する業界や商品は数多くありますが、その中でも一番割合が多いのは加工食品・飲料の分野で、全体の約40%を占めています。

またインターネットの普及により近年では、通信販売や宅配の分野での使用も伸びてきています。

特に今春以降、新型コロナウイルス感染拡大による自粛要請の影響で、ネット通販が大幅に伸びており、そのパッケージとして段ボールの使用量も伸びてきています。

新型コロナウイルス後の社会も、今までのような生活様式ではなく、大きな変化があると思いますが、段ボールや紙パッケージは、そんな社会にもさまざまな分野に適合する優等生になり得る素材であると確信しております。

弊社でも実際に段ボールの製造・加工しており、いろいろな分野で利用されていますので、是非とも興味・関心を持っていただけたらと思います。